

兵庫

新聞

(第3種郵便物認可)



山崎一十種(10)回千種、右越えのサヨナラ打を放ち右手を突き上げる天野(7)回千種、西岡の横飛で同点に追いつく

夏の高校野球

千種粘り強く延長制す

全国高校野球選手権地方大会に代わる独自大会「県高校野球大会」の2、3回戦が26日、ほっともつとフィールド神戸(神戸市須磨区)などで行われた。長田や明石がコールド勝ちし、強さを見せたほか、千種は延長タイブレイクの末、サヨナラ勝ちを収めた。雨天のため一部の試合は延期された。

ウイंक球場

千種8ー7山崎

千種がシーソーゲームを制した。九回に1点差を追いつき延長戦に持ち込むと、タイブレイクの十回、

5番の天野が右越えの適時打を放ってサヨナラ勝ちした。昨秋には地区予選を勝ち上がって県大会に出場するなど勢いづいておれたという天野は「(タツリ)次も全員でカバリーして合チャップにつながる」外野って戦いたい」と意気込んでライカ内野の間を抜く。距離を出してヘッドを返す練習をした成果を出せた」と汗をぬぐった。

山崎は七回に連打で2点差をひっくり返すなど粘りの戦いをみせたが、最後に力尽きた。

目立った好走塁

千種・清水雄一監督「守備のミスが点に絡んで浮足立ってしまったが、ヒットが多く出て、新チームで初めて劣勢でも打ち返すことができた」

千種は好走塁が多かった。浅めの外野フライでも本塁へ突っ込んで生還したり、相手守備がもたつくすきに進塁したりした。梅本稜大主将は「(走者は)外野からの中継のカットマンが捕球する時の様子を必ず見て、次の塁を狙う姿勢を徹底している」と話す。

2010年に中高一貫教育校になって以降、地域